



子供たちの会話のなかで、野外彫刻はどんな姿を見せてくれるでしょうか？（ある日）のおしゃべりが、子供たちの、また音声ガイドか？（ある日）の思ひ出を残してくれて、（ある日）の思ひ出を残してくれて、そんなみなさんのおしゃべりや思ひ出が、たくさん詰まったまちなのでは、と思いを巡らせながら。（UBE エンタープライズ事務局 学芸員 三浦梨絵）

彫刻を楽しむような気持ちになれる、そんな鑑賞ツールをつくることを目指しました。そしてみなさんに聞いていただくことで、聞いているひとも子供たちの会話のなかにまぎって目が見えない白鳥さんにもイメージが伝わるように、目で見ること、体で感じること、考えたことをできるだけ言葉にしてもらうよう声をかけしながら、子供たちが子供たち自身の力で等身大の鑑賞ができる場をつくるよう心がけました。そしてその会話をもとに台本を作成し、音声ガイド（ある日）のおしゃべりが、子供たちの、また音声ガイドか？（ある日）の思ひ出を残してくれて、（ある日）の思ひ出を残してくれて、そんなみなさんのおしゃべりや思ひ出が、たくさん詰まったまちなのでは、と思いを巡らせながら。（UBE エンタープライズ事務局 学芸員 三浦梨絵）



奥深さを感じずにはいられません。作者や美術館の手を離れて一人歩きをはじめた作品の類もしや、通り道の目印のように親しまれている野外彫刻を眺めるとき、小さな子供が夢中で野外彫刻に駆けよっていき姿に出くわすとき、

ある野外彫刻のことを本当によく覚えていて、いつも驚かされます。

それでも宇部のまちには、周囲の景色にすっぴんがなじみ、なくてはならないような存在感を放ち、

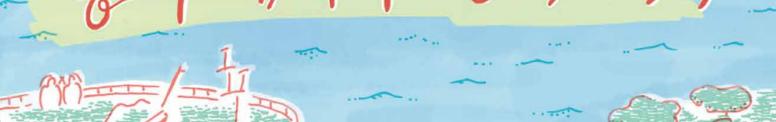
まちの一部のように愛されている野外彫刻がたくさんあります。とくに子供たちは大通りや公園に

彫刻を目にするとき、これ作ったのはだれだろう？とか、どんなメッセージが込められているのだ

野外彫刻。作者の名前や作品の名前など、簡単な説明書きは作品のそばに書いてあります。また、ふとわたらにある

朝出かけるとき、夕方買い物をするとき、ひとびとの生活の様々なときに、ふとわたらにある

彫刻の丘で音声ガイドをつくろう！



UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）

（緑と花の彫刻の博物館アートプロジェクト／女子美術大学教授 日沼慎子）

世界でたったひとつの、あなたと彫刻との「ものがたり」を、ぜひ、聞かせてください。誰かに話そうとしたら、「ものがたり」ができた、もつともつと敬愛だと思いませんか？お話を耳を傾けて、受け止めてくれるでしょう。そして、彫刻とあなたがお話を、また別の悲しかったこと。今日、嬉しかったこと。そして、明日の夢のこと。彫刻たちは、きつとあなたのいすよね。そんな風に、彫刻とお話ができたら、仲良くなれたら素敵だと思いませんか？昨日、しを見守っている。空を飛ぶ鳥や、路地を横切る猫たちと、お話できたら、仲良くなれたら嬉しいもの街並み、いつも通る道の風景の中に、宇部の彫刻があります。そして、静かに私たちのくらくらと見えること、見えなくすることがありますよ。大地や空や空気がそこにあるように、いつ

野外彫刻は、誰もが触れることのできる、もつとも身近なアート。でも、近くにありすぎるからこそ、

彫刻と向き合う楽しさを味わってほしいです。（学校教育課指導主事 末富奈津美）

自分だったら、何と言葉にするだろう…。見初小学校6年生のガイドを聴きながら、多くの人に

体験となりました。この音声ガイドづくりは、子供たちはもちろん、関わったすべての人にとって、彫刻の見方が広がる

とても嬉しそうでした。そのどちらかが本場に大切な時間であったと思います。

場面もありましたが、イメージが言葉にできるときや白鳥さんや友達と通じ合ったときは、考え、自分の言葉で伝えようとしていました。どのように表現したらよいか戸惑い、考え込む

「何が見える？」「見えないことは何？」この問いかけに対して、子供たちは彫刻を前にして真剣に



「何が見える？」「見えないことは何？」この問いかけに対して、子供たちは彫刻を前にして真剣に

## UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）

緑と花と彫刻のまちとして知られる宇部市。UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）は、戦後のまちの美化と心の豊かさを求める市民運動をきっかけとして、1961年にはじまった日本初の大規模な野外彫刻の国際コンクールです。湖を望む緑豊かなときわ公園を舞台に、2年に一度開催されています。展覧会終了後、出品作品の一部は宇部市のコレクションとして市内各所に恒久設置される仕組みで、これまでに市内に設置された野外彫刻は約200点。まちづくりにアートを取り入れた先駆的な試みとして、歴史的にも高く評価されています。2019年秋開催の第28回 UBE ビエンナーレには、イタリア、フィリピン、台湾、日本の4カ国のアーティストによる15点の野外彫刻が出品されました。



## 彫刻教育推進事業

宇部市では2011年から教育委員会と連携し、まちの財産である彫刻を活用した様々な教育プログラム「彫刻教育」の実践に取り組んできました。

2015年からは市内の全小学校4年生を対象に、UBE ビエンナーレ彫刻の丘で「野外彫刻鑑賞授業」を実施しています。

**視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップとは**

2012年発足。全国の美術館、学校などで、毎月一回のペースで活動する任意団体。目の見える人、見えない人、異なる属性の人が集まり言葉を交わしながらさまざまな視点や経験を持ち寄って「みる」ことについて考えるプログラムを企画運営している。

フェイスブックページ <https://www.facebook.com/kanshows/>

主催：宇部市  
企画：UBE ビエンナーレ事務局・視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ  
実施校：宇部市立見初小学校（彫刻教育モデル校）  
発行：UBE ビエンナーレ事務局  
（宇部市 観光・シティプロモーション推進部 UBE ビエンナーレ推進課）  
〒755-0001 山口県宇部市大字沖宇部 254 番地 ときわ湖水ホール  
電話：0836-51-7282 9:00～17:00（土日祝は除く） Fax：0836-51-7205  
E-mail: [museum@city.ube.yamaguchi.jp](mailto:museum@city.ube.yamaguchi.jp)

緑音データの編集・報告書の作成  
読み直したり、前半後半に分けて読んだ部分をつないだりして、音声データを整えました。

授業がはじまってから、いろいろな軌道修正があったので、プログラムの意義を再確認しながら報告書を作成しました。



授業は計4日間。彫刻教育モデル校でもある宇部市立見初小学校の6年生18名のクラスで行うことになりました。記録撮影や録音

など、たくさんの方に協力してもらいました。

重ねました。

整理など、校長先生や担任の先生、教育委員会の担当者や検討を

実施する小学校とのスケジュール調整や、授業の段取り・目標の

重ねました。

実施する方針を決めました。

2018年12月に宇部市は全国で初めて共生社会ホストタウンに認定

されました。今回のプログラムも、宇部市の共生社会実現へ

取り組むのひとして、関係課や教育委員会と連携しながら実

施する方針を決めました。

もったり、野外彫刻を題材にどんな鑑賞ができるか妄想する

ワークショップを見学したり、代表の林さんときわ公園に来て

「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」が他館で行っている

下見・プレイストアミーング

事業実現までのながれ



